

政策コメンテーター報告(第2回)(意見照会期間:2016年10月31日～11月11日)

分野:	マクロバランス
氏名:	五十嵐 敬喜 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 研究理事
質問事項	記述式回答
予測される経済・社会的な構造変化(2030年)	(300字以内で回答してください)
(1)① 2030年には、各分野において、どういった経済・社会的な構造変化が予測されるでしょうか。	構造変化をもたらす最大の要因は人口構成の変化(少子高齢化)。30年に向けて経済の供給力の大幅な拡大は望み難いので、資源配分がリタイア世代のニーズを満たす産業に大きくシフトする。サービス経済化、シェア経済化が加速するとともに、ITの利用が、コスト削減を主目的としたものから、新たな付加価値の創造を目指すものになる。
目指す経済・社会の姿(2030年)	(200字以内で回答してください)
(1)② また、そうした構造変化を踏まえ、我が国が目指す経済・社会の姿はどうあるべきでしょうか。	現役世代が減少し、リタイア世代の増加が加速する下では、一人当たりGDPの成長加速は不可欠。その場合、数量や重量の生産加速ではなく、付加価値の生産拡大が求められる。女性や高齢者の労働参加率を高めるとともに、高齢者の健康寿命を大幅に拡大することも欠かせない。
今後取り組むべき構造改革(2016年～2030年)	(300字以内で回答してください)
(2) 上記(1)で挙げられた経済・社会の姿を実現するためには、足元から今後に向けてどのような構造改革に取り組むべきとお考えでしょうか。基本的な考え方や具体的な方法がございましたらご記載ください。	30年には間に合わないが、最重要の課題は教育の改革。有能な将来世代を増やさねばならない。何をもちて有能というのか、どう教育するのかも含め、検討・実行が必要。付加価値の拡大は不可欠だが、十分な拡大は難しい。そこで、人口構成の変化に見合った負担の仕組みに変えていく必要がある。具体的には、税収のウエイトをフロー所得から資産ストックに大幅にシフトさせるべきだ。